



# 唯一無二

緑に囲まれた築130年の古民家がギャラリー  
展示された作品は書、陶器、木工品、写真など約50点  
稲作の無農薬栽培が縁で出会った5人のアーティストが  
友情を形にしたブレないアート

モットーは「一期一会」

5人のアーティストが生み出す上質空間

藤沢で「交友展」



④広さ15畳の奥座敷で筆を走らせる恵利子さん。独自の世界観で無二の世界を切り開く。  
好きな言葉は「拈華微笑」(ねんげみしょう)。心から心へ伝わる微妙な境地や感覚のたとえで、  
以心伝心のことだ。交友で出会った5人の関係が、まさにこれだ。  
⑤床の間に飾られた自慢の書「百花繚乱」と作品に見入る地元の皆さん

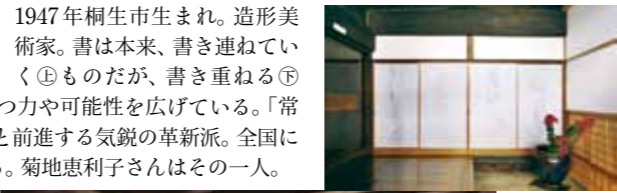


太い梁や柱、高い天井、  
どっしりとした木のぬ  
くもりなど、築130年  
の風格漂う古民家で暮ら  
す藤沢町砂子田の菊地  
恵利子さん。書家の菊地  
さんは9月14日から3日  
間、妹三千代さんと「交  
友展」を開き、自身と仲  
間の作品を展示した。  
出品したのは菊地さん  
をはじめ、同町大籠の陶  
芸家北澤与志夫さん、群  
馬県桐生市の造形美術家  
大澤義寛さんと写真家青  
木修さん、埼玉県神川町  
の木工作家牛腸公男さ  
ん。07年、菊地さん方  
で始めた稲作の無農薬栽培  
が縁で出会った5人は偶

### 木工職人 牛腸公男の作品



1950年桐生市生まれ。埼玉県神川町で  
半自給の暮らしをしながら「風来工房」  
を営む。国内製材業者が激減、材料の多くを輸入に頼る  
今は良材の確保が難しい。「雑木」と見捨てられた無名の  
材、流通からはずれた短材や小径木に命を吹き込み味わ  
い深い作品をつくり上げる木工の魔術師。「これからは、  
雑木や雑工の時代。いよいよ自分の出番」と前を見る。



**造形美術家  
大澤義寛の書**  
1947年桐生市生まれ。造形美術家。書は本来、書き連ねていく④ものだが、書き重ねる⑤ことで、文字が持つ力や可能性を広げている。「常に旬でありたい」と前進する気鋭の革新派。全国に25人の弟子がいる。菊地恵利子さんはその一人。



### 陶芸家 北澤与志夫の陶器



1948年群馬県生まれ。藤沢町「大籠焼・瑞衡窯」窯元。72年、焼き物の原料となる良質な粘土と燃料となるアカマツが豊富な藤沢町に移り住む。「日常使い」を前提にした作品は、土本来の魅力を生かした焼き締め。自然美を追求しながら命を吹き込んでいく。藤沢町大籠在住



### 書家 菊地恵利子の書



1960年藤沢町生まれ。86年日本書道教育学会書学院で学ぶ。96年それまでの書歴を捨て、大澤義寛氏に師事。06年桐生吾妻公園茶屋悠緑菴で個展。07年稲作の無農薬栽培を開始。市内で書道教室を開く傍ら市生涯学習講座の講師も歴任。藤沢町砂子田字前川原在住

「交友展」の題字。大澤義寛さんの作品はけを使う独特の技法で書いた。大澤さんは「書は、自分の思いを形にしていけるもの。自分がやりたいことを素直に表現すること」をモットーに精力的な活動を続けている



然にも全員がアーティスト。作品を持ち寄って交流を深めようと10年、田村町の「蔵のひろば」で初めて同展を開催。地の縁、人の縁を大切にしながら、それぞれ歩んできた5つの物語は、「交友」をテーマに一閃で、無二のハーモニーを奏でた。3回目の今回は、5人の「出会いの場」となった菊地さん宅が会場。古民家というアートな空間に、自然美を追求した5人の世界が広がった。

菊地さんは「自宅に展示したことで、地域の皆さんに見てもらえたことが一番うれしい。『来てよかった』って言ってもよかったです」が何より力になります」とにっこり。北澤さんは「異なるアートを一つの空間で見せるため、相手に対する尊敬と畏敬を忘れずに調和を目指した。皆さんから好評を得たことは励みになる」と笑顔を見せた。自身と向き合ってきた生み出された「ブレのない」無二の作品は、5人の生き方であるとも言える。

「二期一会」を大切に、巡り会う全てのヒト・モノ・コトに感謝する菊地さん。「私たちの活動が、誰かの励みになれば幸いです」と静かにほほえむ。西の空が薄暮に染まる頃、初秋の古民家にすがすがしい風が吹いた。

### 新聞記者 青木修の写真



1953年桐生市生まれ。桐生市内の新聞社「桐生タイムス」に勤務する記者。青空が広がる日があれば、雨が降る日もある。風が吹く日があれば、雲がわく日もある。「一日として同じ天候がないように、私たちは二度とない瞬間の積み重ねの中に生きている」。作品の多くは、そんな日常の風景やドキュメンタリーだ。

